

主催：NPO 法人札幌いちご会 障害者社会参加総合推進事業

後援：北海道、札幌市、札幌市教育委員会

講演会

日本の公的介護保障は こうして出来上がった

日時：9月14日（土）14～16時（開場受付13：30～）

場所：札幌市生涯学習センターちえりあ 2階 大研修室
（札幌市西区宮の沢1条1丁目1-10 地下鉄宮の沢駅直結）

参加費無料

要申込

定員100名

申込〆切

9月6日

（金）

※定員になり次第、受付を終了させていただきます。
※手話通訳・要約筆記をご希望の方はご連絡ください。

参加ご希望の方は下記問い合わせ先へ
氏名・連絡先をお知らせください

講演会終了後、同会場にて意見交換会をおこないます！
山下さんとお話したい方など、多くの方のご参加をお待ちしております！

やました まさとも

講師 山下 正知 氏

<プロフィール>

1974年東京都庁に入り、1997年10月開始「全身性障害者介護人派遣事業」や、1996年4月開始「盲ろう者のための通訳・介助者派遣事業」などの障害福祉関係を中心に社会福祉分野の仕事に携わる。2010年に東京都庁を早期退職し、社会福祉法人白峰福祉会の常務理事に就任。2012年、社会福祉法人全国盲ろう者協会の事務局長に、2013年には同協会の常務理事に就任。2017年には日本障害フォーラム(JDF)代表者会議構成員に就任。



札幌市では重度の障がい者の在宅生活を支えるための国のヘルパー派遣事業として「**重度訪問介護**」、そして障がい者自らが介助者を見つけて登録する**PA(パーソナルアシスタンス)制度**が市独自の施策としてあります。しかしどちらも時間数の制限や、介助者不足など、さまざまな問題を抱えています。これからの札幌市の障がい者福祉を支える制度をどうしていったらよいのでしょうか？

この講演会では、そうした問題をこれから考える上で、まだ日本で重度の障がい者の公的な介護保障が全くなかった頃から、東京都で初めて起こった日本で最初の障がい者自らによる「**介護保障の要求運動**」を当時の東京都の職員として、障がい者団体との交渉に直接かわられた、山下正知氏を講師に迎え、いまの制度がどうやって出来上がって来たのかを語っていただき、そこから現在、そしてこれからの障がい者福祉の在り方を一緒に考えていきます。

参加申込
問合せ先

NPO 法人 札幌いちご会

〒063-0062

札幌市西区西町南 18 丁目 2-1 稲嶺ビル 1 階



電話：011-676-0733

FAX：011-676-0734

メール：info@sapporo-ichigokai.jp